



平成 16 年度 第 3 回 研修会 報告

第 3 回研修会は、JR 千葉駅北口出発・帰着の大型貸切バスでの移動で、下記のとおり施設見学を実施しました。

【期 日】2005 年 2 月 4 日（金） 午後 2 時 30 分～4 時 10 分

【見 学 先】富里市立図書館

概要説明	午後 2 時 30 分～3 時 30 分
・講 師	高橋正名氏（富里市立図書館長）
・テーマ	「次世代型 IC 図書館システム」
施設見学	午後 3 時 30 分～4 時 10 分

富里市立図書館（平成 15 年 3 月 27 日開館 館長 高橋正名氏）

施設の概要

所在地 千葉県富里市七栄 6 5 3 - 1
電話番号 0 4 7 6 - 9 0 - 4 6 4 6
F A X 0 4 7 6 - 9 0 - 4 6 4 5

旧役場庁舎跡、富里市の中央に位置し、ライブラリーオープンスペース、一般開架ゾーン、児童開架ゾーン、研修会議ゾーン、ふれあい教室、管理ゾーンより構成され、明るく光に満ちた造りとなっている。開架 10 万・書庫 10 万冊の収蔵能力を持ち、図書の管理に記憶容量の大きな IC タグを活用した「次世代型 IC 図書館システム」の導入は全国で初めての試みである。

（『図書館年報 平成 16 年度』 編集・発行 富里市立図書館 より）



《ライブラリーオープンスペース》

IC 図書館システムの概要を聞いて

東京歯科大学図書館 島田 和 浩

今回の研修会は、記憶容量 2 キロバイト（日本語で 1000 文字分相当の情報量）という大容量の非接触型無線 IC タグ（以下、「IC タグ」という）を用いた次世代型 IC 図書館システムを導入した日本初の図書館である富里市立図書館に行き、高橋正名館長よりシステムの概要説明を伺った。

IC タグとは、微細な IC チップに情報を記録し物流や在庫管理に活用できるようにした電子荷札のことで、IC チップとアンテナで構成されている。IC タグに記録される情報は、書名・巻次・著者名・版表示・ISBN などの書誌データと、登録番号・分類・図書記号・保管場所などのローカルデ

ータがある。こうした情報に約1キロバイトを使用し、残り1キロバイトは自由に利用できるエリアとしており、現在は、最終利用日と累計利用回数のデータを記録するにとどまっている。

《ICタグ導入のメリット》

- 1) 今までバーコードを1冊ずつスキャンしていた貸出・返却作業が、複数冊を同時に処理できることにより業務の迅速化が図れる。また、利用者自身で簡単に貸出処理を行える自動貸出機の導入によりカウンターでの貸出業務の削減が図れる。
- 2) 蔵書点検は、従来はいちいち図書を抜き出してバーコードを読み取らなければならなかったが、ICタグの場合、棚に図書を並べたままハンディ端末で本の背をなぞるだけで済むので、作業時間の短縮化と労力削減が図れる。
- 3) 出入口に設置する貸出手続き確認ゲートが、従来の磁気式のものに比べ誤作動が少なく、また人体への影響が非常に少ない。



《高橋正名館長》

《ICタグ導入後の問題点》

タグが同じような場所に垂直に重なるとICタグ同士の距離が近くなることによって、リーダライタからの電波の透過性が阻害され、感知できない資料が発生する可能性がある。特に絵本のような薄い図書で複数のタグが近接する場合や文庫本などの同一判型でタグが同じ場所に垂直に重なるとリーダライタが感知しないことがある。さらに、CD等の金属製の資料や図書の表紙や見返し、扉などにカーボンインクや銀・アルミ箔などの金属材料が使われている場合、それらが電波を遮断し、データを読み取れないことがある。これらは、リーダライタの他、貸出手続き確認ゲート、蔵書点検用ハンディ端末にもあてはまる現象である。

感想

図書館にとって複数冊を同時に貸出処理できること、また棚に図書を並べたまま蔵書点検できることに大きな魅力を感じました。特に書架に並べたまま、背をなぞるだけで蔵書点検ができる様子を見て、そのあまりの処理の早さに驚きました。

ただ、大きさ・厚さが揃った図書ならばスムーズにいくが、それがバラつきのある場合は、データが読み取れない場合もあるということを知り、デコボコした図書の並んだ書架を思い出して、考え込んでしまいました。

また、ICタグの価格がバーコードやタトルテープに比べてまだ高価であるということも、容易には導入できないと感じた次第です。

ただ、このICタグがいずれバーコードやタトルテープにとって変わることは、間違いのないだろうと思います。ICタグの技術が進み、将来的にはゲートを通るだけで貸出手続きができてしまう、そんな図書館を夢見ながら、富里市立図書館を後にしました。

富里市立図書館を見学して

千葉市中央図書館 田久迪夫



《館内見学中》

富里市は、東京国際空港に隣接する人口5万人の都市であり、図書館は、市制施行した年度の平成15年3月に開館した新しい図書館である。

図書館は、市のほぼ中央部に位置し、全面ガラス張りの瀟洒な2階建ての建物で、玄関を入ると吹き抜けの明るい空間が広がり、そこには閲覧席と10台のインターネット端末が設置され、ゆったりとした雰囲気を演出している。この前面ガラス張りの窓が照度を保つため、年間にすると25%の消費電力の節約と公共施設としては、珍しい床冷暖房を併用した空調設備は衛生的で適度

な温度を保ち設備的な面でもよく考えられている。

この図書館の特出すべきことは、資料管理のために図書館として全国で初の IC タグを採用したことである。IC タグを資料に貼付することで貸出・返却から資料の無断持ち出しの防止、蔵書点検まで簡単な操作で行うことができることであり、貸出・返却作業の大幅な効率化と自動貸出機の導入などにより利用者の待ち時間の短縮ができることである。高橋館長のお話によると最近の調査では、館内に設置した 3 台の自動貸出機を利用者のおよそ 4 人のうち 3 人は利用しているとのことで、利用者も抵抗なく利用している光景が浮かんでくる。実際に自動貸出機の前に立ったが、しゃれたデザインで館内に溶け込み違和感がなかった。



《 自動貸出機について説明を受ける参加者 》

IC タグによる図書館運営を見て、二十数年以前、どこの図書館でもコンピュータ化の検討や導入を開始した頃を思い浮かべた。今では、コンピュータを導入した図書館運営は当たり前となり、インターネットによる蔵書検索の公開に始まり予約入力、メールによる予約連絡、貸出状況のチェックなど貸出・返却、資料検索のみの時代と比較すると格段の進歩を遂げている。IC タグが持つ可能性に、今後の図書館運営の新たな展開を予感させられた一日であった。



加盟館だより

(1) 千葉経済大学総合図書館

平成 14 年 10 月に本学図書館を地域に開放して 2 年 4 か月が経ちました。ご参考までにこれまでの経過と現状をお話しします。数値は平成 17 年 1 月末現在です。

利用登録をされた方は 291 名(年間延べ入館者は約 800 名)、貸出点数の累計は 2,290 点で内 AV 資料は 441 点です。居住地別の利用者比率は、千葉市内が約 74%、県内で千葉市以外が 22%、県外は 4% でした。利用されている資料の分野ですがパソコンや法律・経済関係の図書、雑誌など専門的なものが多いようです。公共図書館で所蔵していない資料やデータベースを活用されているようです。

また、当館では毎年秋に講演会を学内で開催しています。各年度の講演者と演題は以下のとおりです。各回とも 100 ~ 140 名前後の方に参加していただき、講演後には質疑応答など講演者との交流も行われました。

平成 14 年度 加藤幸子氏(作家) 演題は「青年期をどう生きたか - 一冊の本との出会い - 」

平成 15 年度 佐藤洋二郎氏(作家) 演題は「私の文学背景 - 苛酷な人生を生きる者たちに寄せる深い愛のまなざし - 」

平成 16 年度 長谷川摂子氏(児童文学者) 演題は「子どもたちと絵本」

平成 16 年度の講演内容について簡単に紹介させていただきます。

約 2 時間にわたり、実際に絵本を使って読みきかせの実演がありました。お話しの要点は「うたって読む」こと。子どもは絵と文字だけでなく音やリズムに敏感で、読み方によって絵本の世界がまるで違ったものになる。お気に入りの語句があると、その音の響きをもう一度聞きたくて息をのんで待ち一緒に声を出す。その瞬間、読み手と聞き手の呼吸が融けあい心が通じ合う。読み手は子どもたちの輝く表情から喜びを感じエネルギーを受け取る。絵本の素晴らしさはそこにある。絵本は「与える」ものでもなければ単なる「道具」として使うものでもない。以上のようなことを中心に、絵本にこめられた想いを読み解く詳細な説明がありました。

絵本を読んでいることが楽しくてしょうがないという長谷川さんの喜びが自分のことのように感じられ、とても幸せなひとときを過ごすことができました。本年も新たな講演会を開催予定ですので、加盟館の方も機会がありましたら是非ご参加ください。

(2) 千葉市生涯学習センター調査・資料室

「千葉市生涯学習センターのある一日」

管理課情報相談係

田中 宏明

・午前9時30分

朝一番、1階の生涯学習広場の学習相談窓口にて、Aさん(60代・男性)来訪。以前紹介された大学の公開講座を修了するので、ほかに学びたいものがないか探しているとのこと。ネットワーク協議会加盟館ほか、多くの方々からご寄贈いただいて広場に配架している各種講座のパンフレットや催物案内チラシ、公開講座や通信講座の要項などをたくさんお持ち帰りになった。

・午前10時45分

2階の調査・資料室の学習相談窓口にて、Bさん(20代・女性)来訪。「市民の学習ニーズの地域差について」というレポートのため、全国各地の行政資料を探しているとのこと。千葉市を基準にしたいという意向なので、千葉市と同格の全政令指定都市発行の行政資料をご紹介した。

・午後3時30分

1階生涯学習広場の学習相談窓口にて、Cさん(50代・男性)来訪。千葉市の自然保護を目的としたサークルを結成したので、参加者のスキルアップにつながる講座などを探しているとのこと。環境問題に関する講座案内をいくつかご紹介しながら詳しくお話を聞くうち、会の運営方法や学習方法で悩んでいることも相談されたので、2階の調査・資料室へ移動し、サークル活動の進め方や様々な学習方法に関する専門図書を紹介した。さらに、千葉市の自然環境の変遷について調べたいとのご要望があり、併設の千葉市中央図書館2階の地域資料コーナーにご案内した。

・午後5時

閉室間際、2階の調査・資料室の学習相談窓口にて、Dさん(30代・女性)来訪。E市で新しく社会教育施設を設置する計画が持ち上がり、自分が担当職員となったので、同様の施設の資料を探しているとのこと。計画規模についてお聞きし、同規模の公民館などの資料をご紹介した。

このように、千葉市生涯学習センターでは、市民の皆様の高度な学習ニーズに対応するため、生涯学習・社会教育に関する専門的な情報の収集を進めておりますので、資料の提供など、ご協力をお願いいたします。また、市民の方から生涯学習に関するご相談等がありましたら、ぜひ管理課情報相談係(043-207-5815)までご連絡ください。

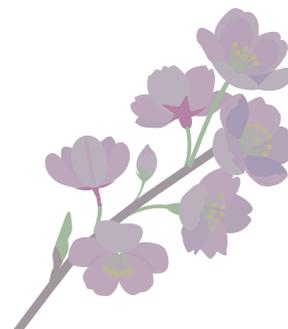
お知らせ

平成16年度 第3回理事会について

今年度最後の理事会を、下記のとおり開催します。

【日 時】平成17年3月24日(木)午前10時~12時

【会 場】千葉市国際交流プラザ 第3会議室



ネットワーク通信 No. 19

2005年3月9日

発行：千葉市図書館情報ネットワーク協議会

事務局：千葉市中央図書館内

〒260-0045 千葉市中央区弁天3-7-7

Tel 043-287-3980 Fax 043-287-4074